

せつぶん
節分 の はなし



せつぶん りっしゅん こよみ うえ きょう はる
節分とは、立春（暦の上で「今日から春」

とされる日）の前日（ひ ぜんじつ）で、今年（ことし）は 2月3日（がつみっか）

です。

ふゆ はる
冬から春になる

ふしめ ひ
節目の日です。



むかし とく きせつ か お
昔から、特に季節が変わるころに起こり

びょうき かじ じしん さいがい
がちな病気や、火事、地震などの災害は、

「おに」が持つて

くると信じられて

きました。



そのため、「^{せつぶん}節分」の^ひ日には、^{わる}悪いことを

^お追^{はら}い^{ぎょうじ}払^{おこな}う行事が行われます。

^{まめ}「豆まき」をしたり、「^{あたま}いわし」の^{ひいらぎ}頭を^{くわ}柁

^{えだ}の^さ枝に^{げんかん}刺して^{かざ}玄関に飾ったりします。



まめ

<豆まき>

^い煎った大豆^{だいず}を使う^{つか}ことが多い^{おお}、

「お^{そと}には外、福^{ふく}は内^{うち}」^いと言^いいながら

^{だいず}大豆^{だいず}をま^まま^まきます。

これは「お^おに」^{はら}を^{しあわ}追^{しあわ}い^{しあわ}払^{しあわ}い、幸^{しあわ}せ

の「福^{ふく}」^{ふく}をよ^{ふく}びこ^{ふく}むた^{ふく}め^{ふく}です。



<豆まき>

かぞく けんこう しあわ ねが
家族の健康や幸せへの願い

が、こめられています。

だいで じぶん ねんれい かず た
大豆を自分の年齢の数だけ食

べると、1年間を健康に過ごせ

るとも、いわれています。



<いわし>

あたま ひいらぎ えだ
いわしの頭を 柊の枝にさして、
げんかん かざ いえ
玄関に飾るのは、「おに」を家に
い ふうしゅう
入れないようにするための風習
です。



<いわし>

いわしは、焼くとにおいが強くなるので、
そのにおいて「おに」を近づけないよう
にしたそうです。また、柊の枝を使うの
は、柊の葉の鋭いトゲで「おに」を追
い払うといわれているからです。



鬼を追い
払うよ。



きょう きゅうしょく せつぶんこんだて
今日の給食は、節分献立です。

• いわしのかばやき

あ ふくまめ
• 揚げ福豆

きょう きゅうしょく せつぶん いみ
今日の給食も節分の意味を

かんが
考えながら、

あじ
味わって

いただきますしょう。



おわり